

2019 年 4 月 28 日

団体名 白梅学園大学小平学・まちづくり研究所.....

代表者・役職名 氏名 所長 山路憲夫

1. 助成プロジェクト名

小平学・まちづくりゼミナール in 白梅～支え合う共生社会を目指して

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

小平市の総合的研究・調査を通して、小平学の構築、それにより同市でのまちづくりを進めることを目的に2016年末設立、10回にわたる研究会や市民公開シンポジウムを開催、2018年9月には「小平学・まちづくり研究のフロンティア」も出版した。会員数は白梅学園大学教員や「小平西地区ネットワーク」の地域住民ら17人。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可） 250文字程度まで

未曾有の少子高齢化が加速する中で、地域での絆が薄れ、認知症やフレイル状態に陥った高齢者、一人暮らしも増え、なんらかの手助けを必要とする高齢者や家族、障害者らが日常の暮らしの不安を抱える。医療や介護、さらには生活上の課題に加え、今後、施設や病院で最期を迎えることが難しくなる中で、在宅での看取りや終末期ケアといった課題も深刻になりつつある。小平市での現状を市民、専門職、行政とともに問題の所在を知り、解決策をさぐり、地域での支え合いのネットワークを築く。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度まで

「小平市の障害者支援」（藤内昌信・だれもがともに小平ネットワーク代表）「小平市のまちづくり（小平市第五次長期計画策定に向けて）」（講師・横山雅敏課長補佐安部幸一郎小平市政課長）「市民活動（アスピア）中間支援組織の役割と課題」（田原センター長）の研究会を開催、小平市のまちづくりの現状と課題、方向性を取り上げた後、市民公開シンポジウム「対話で支える居場所づくりー在宅医療・みんくるカフェの現場から」（孫正義・東大医学部国際センター講師、2019年2月）を開催、医師ら専門職と市民と対等に話せる場づくりの役割、その進め方についての認識を深めた。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

3回にわたる研究会には30人～40人の市民、専門職、行政の関係者が参加、市民公開シンポジウムには50人が参加。小平市での障害者支援がさまざまな人たちの関わりによって築き上げられてきたこと、市民活動を支援する取り組みも「アスピア」のような支援組織により着実に進みつつある。そうした市民活動の積み重ねを受けて、行政も地域共生社会を目指すまちづくり長期計画に取り組みつつある。「みんくるカフェ」の取り組みからは、医師ら専門職と市民の垣根なく話せる場づくりの必要性、重要性を共通認識として持つことができた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

少子高齢化の加速は、小平市でも自立困難な人々を支えるための地域包括ケアの構築を迫るが、現実には支え合う地域づくりはなかなか進まない。協働の意識、取り組みは徐々に広がっているとはいえ、行政や医師会などの専門職団体、専門職の支えはまだ不十分である。それを変えていくためには市民が小平市という地域の現状をきちんと理解し、安心して暮らしていくための仕組みづくりについて、声を上げ、支えあいの地域づくりに参画

していくことが求められる。そのためには医師ら専門職と対等に話せる場づくり、それを通しての自らの生活課題を自覚するが求められる。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

